

4 授業による研究の実証

(1) 単元名 ファンタジーを読んで不思議な世界へ

教材 『白いぼうし』光村4年上

(2) 単元設定の考え方

ア 単元について

子どもは、これまでに『ふたりはともだち』の「がまくんとかえるくん」のシリーズを学習してきている。シリーズ作品の安定した登場人物のキャラクターにより、楽しく作品を読む活動をしてきた。また、『つり橋わたれ』で自分の生活体験と重ねながら物語の構造や、心情表現の工夫を発見し、ファンタジー作品のもつ幻想の世界を読み味わってきた。

そこで、ここでは、多様なファンタジー構造やテーマをもった作品を重ね読みし、読んだことを伝え合う学習をすることにより、読む楽しさを味わわせ、読書に親しむ態度の育成を目指して本単元を設定した。本単元の中核教材である『白いぼうし』は、ファンタジー作品シリーズ『車のいろは空のいろ』の一作である。子どもたちにとって、ファンタジーが作品を支えているシリーズものに出会うのは今回が初めてである。これらの作品は、登場人物であるタクシー運転手松井さんを中心として起こるファンタジックな作品構造をもっている。蝶が女の子に化けたのかもしれないという非現実の世界を、個性的な登場人物、色彩感、におい、細部の描写というリアリティで支えている。ファンタジーという作品構造に着目しながら物語を読み進めるといふ視点をもたせ、シリーズ作品のおもしろさを読み味わってほしいと考える。

子どもは、既習教材『お手紙』『スイミー』『つり橋わたれ』を再読することにより、シリーズ作品に関する興味・関心を高めたり、ファンタジーの構造をとらえたりするであろう。そこで、子どもに『車のいろは空のいろ』シリーズの複数の作品の重ね読みや並行読書を行わせ、読んだ本について読書発表会をさせる。読む活動は、シリーズ作品の中の松井さんの人柄や、幻想の世界が溶け込んでいる作品構造を意識させて読み深めていきたい。複数教材の重ね読み、並行読書という読書を経験させることは、子どもの自己学習の方法が具体化され、主体的な読みにより、読解後も興味が持続し、自主的に発展的な読書活動に入ることができると考える。つまり、読解と読書の一体化が図られ、読解に関連する表現活動を取り入れることで、スムーズに発展的な学習へと進むことができる。また、発展的な学習として、読書発表会を行い、さらに、他のファンタジー作品（シリーズ作品やあまんきみこの他の作品など）を主体的に読む活動を通して、読みを交流させ、自己の読みの変容を自覚させていく。

このように、既習教材、同一作者の作品の重ね読み、並行読書など多様な学習活動を経験させ、関連した表現活動を仕組むことで、子どもの読みが深化するとともに、読書生活が広がっていくものとする。

イ 子どもの実態について

本学級では、国語の学習があまり好きではない子どもが約半数いる。しかし、物語文の学習が好きなお子が多く、物語文の学習への興味・関心は比較的高いと言える。子どもの好きな学習活動は、読書クイズや紙芝居など表現活動であり、あまり好きではないものは、登場人物の気持ちを考えたり、物語の構成を考えたりする読解の活動である。読解と表現活動を関連させ、読解も意欲的に取り組ませたい。

また、読書に関する実態は、読書が好きなお子が多く7割近くおり、興味・関心が高いと言える。しかし、読書の貸出冊数を調べてみると、月に10冊以上借りている子どももいれば、全く借りない子どももあり、子どもの意識と貸出冊数にずれがある。読書量は個人差が大きい。

ウ 指導に当たって

(ア) 読書に関する興味・関心を高めるために、アーノルド＝ローベル『ふたり』シリーズを紹

介し，さらに，寺村輝夫『王様』シリーズをストーリーテリングし，学習課題を設定させるようにする。

(イ) ファンタジー作品の表現，作品構造に気付かせるために，レオ＝レオニ『スイミー』，長崎源之助『つり橋わたれ』を再読するようにする。

(ウ) 活動の展開にあたっては，同じシリーズの作品『山ねこ，おことわり』と重ね読みすることにより，シリーズで貫かれている松井さんの人物像をつかませるようにする。それとともに，『車のいろは空のいろ』の作品集，ブックリストを配布して，並行読書をさせ，読書発表会のための読書活動に取り組みさせておくようにする。

『白いぼうし』の作品世界を読み味わわせ，ファンタジー作品を構造的に読むという読書を経験させるために，夏みかんの役割，不思議な出来事とその伏線，色彩語，比喩などの表現をワークシートにまとめさせるようにする。読み取ったことについては，子どものワークシートを冊子にして配布し，交流させることによって，自他の読みの違いに気付かせ読みを深めていけるようにする。

さらに，指定図書を読ませ，読む視点に気付かせるとともに，読書の幅を広げていけるようにする。

(I) ワークショップ形式で，隣接学級の子どもを招いて読書発表会をすることで，筋道を立てて分かりやすく話す能力や相手の話の中心を聞く能力を身に付けさせるとともに，読書に興味・関心をもち自己の読書生活を広げていけるようにする。

(3) 単元の目標

ア 情景を想像しながらファンタジー作品を読み味わい，あまんきみこの作品やシリーズものの他の作品を意欲的に読むことができる。

イ 友達に分かりやすく気に入った作品のストーリーテリングをすることができる。

(4) 単元の評価規準

ファンタジーの構造を知り，読みを交流させることで，ファンタジーを読む楽しさを味わっている。	【国語への関心・意欲・態度】
ワークシートを基にして，言葉を付け加えながら，筋道立てて分かりやすく話したり，相手の話の中心を聞いたりしながら読書発表会をしている。	【話すこと・聞くこと】
気に入った作品を読みの視点に沿ってまとめ，筋道を立てて分かりやすく書くことができる。	【書くこと】
登場人物の会話や行動描写から読み取ったことを交流し，それぞれの感じ方の違いに気付いている。	【読むこと】
あまんきみこの他の作品やシリーズもののファンタジー作品などを進んで読んでいる。	【読むこと】
色彩語や比喩などの表現に気付き，その表現の効果を理解している。	【言語事項】

(5) 単元の計画（全 13 時間）

過程	学 習 活 動	時間	教 師 の か か わ り	学習資料
見	1 シリーズの作品を紹介し，『白いぼうし』もシリーズの作品であることを知る。	1	ローベルの『ふたり』シリーズを紹介し，既習単元を想起させる。 『王さま』シリーズをストーリーテリングし，読書，読書紹介に関する興味・関心を高める。	『ふたり』シリーズ 『王さま』シリーズ
	2 『白いぼうし』を読み，初発の感想を書く。		観点に従って書かせ，自己の読みを確立させる。	夏みかん
	3 新出漢字の練習をする。		----- 評価項目 ----- 観点に従って感想を書き，自己の読みを確立で	学習ファイル ワークシート1

通 す	4 初発の感想を交流し、自他の読みの観点を理解する。	2	！きているか。(ワークシート) !	感想一覧表
	5 既習教材『スイミー』『つり橋わたれ』を再読し、ファンタジーの表現、構造について話し合う。		観点ごとに類型化して提示し、自他の読みの違いに気付かせる。 ファンタジーの構造を理解させる。ファンタジーの入り口、比喩、色彩語などの表現について、他のファンタジー作品と重ね読みさせながら正しく理解させる。	注文の多い料理店 あまんきみこ対談 語録 『ハリー・ポッター』 シリーズ ワークシート2
	6 学習課題を立て、学習計画について協議する。 ファンタジー作品を読んで、不思議な世界について発表会をしよう。		評価項目 ファンタジーの構造に気付き、ファンタジーを読んでいくことに意欲がもてたか。 (ワークシート、発表) ファンタジー作品を読んで友達に伝えることを確認し、そのために学習していくべきことを話し合わせる。 並行読書として、『車のいろは空のいろ』シリーズを読ませ、読む視点の決定、発表のための作品の選択の参考にさせるとともに、読書量の確保を図る。	ワークシート3 車のいろは空のいろの地図 あまんきみこ作品集
二 求 め る	7 『白いぼうし』を読み取る。 ・ 松井さんの人柄 ・ 夏みかんの役割 ・ 不思議な出来事とその伏線 ・ 色彩語、比喩	3	松井さんの人柄については、シリーズの中の『山ねこ、おことわり』と重ね読みすることにより松井さんの人柄をとらえさせる。 いろいろな松井さんに触れさせることで、あまんきみこの作品を読む意欲を高める。	ワークシート4 『山ねこ、おことわり』
	8 読み取ったことを友達と交流し、感想を書く。		評価項目 松井さんの行動や会話から人柄に気付き、作品のおもしろさを味わっているか。 比喩や色彩語などの表現に気付き、その表現の効果を理解しているか。(ワークシート、発表) 『白いぼうし』の構造をとらえさせながら夏みかんの役割、女の子などについて自己学習を中心にしてまとめさせる。	ワークシート5
	9 他のファンタジー作品を読み、自分の読みの視点を決める。	1	自他の読みの違いに気付かせる。 読みの浅いと思われるところは、交流の話題にする。 初発の感想と比べさせる。 指定図書を読ませ、読みの視点について考えさせる。 ・ 別世界のものと人間との交流 ・ 動物と人間との交流 ・ 過去との不思議な出会い ・ あまんきみこさんの絵本の世界 ・ シリーズ『 』 木村裕一のシリーズものについては、概要を紹介する。	読み取り交流表 ワークシート6 ブックリスト 『しらないどうし』 『おにたのぼうし』 『草木もねむうしみつとき』 シリーズ木村裕一 『あるはれたひに』 ワークシート7
	10 友達に伝えたいことをまとめる。		ブックリストを基に視点に沿って読みたい本を選んで読ませておく。 ワークシートを参考にさせ、分かりやすく話すこと	ワークシート8 学習の手引き ストーリーテリング

三 ま と め る	11 発表のリハーサルをする。	4	<p>ができるように構成を考えさせながら書かせる。</p> <p>----- 評価項目 -----</p> <p>読みの視点に沿って、筋道立てて分かりやすくまとめているか。(ワークシート)</p> <p>友達と発表を見せ合うことにより、それぞれのよさに気付かせ、自分の発表を修正させる。</p> <p>カセット、ビデオテープに自分の発表を撮らせ、聴かせることで自己評価、相互評価をさせる。</p> <p>----- 評価項目 -----</p> <p>工夫して話したり、話の中心に気を付けて聞いたりしているか。(発表、ワークシート)</p> <p>隣接学級の児童を招待し、ワークショップ方式で発表会をする。</p>	<p>グのビデオ</p> <p>ワークシート9 (評価カード)</p> <p>カセットデッキ</p> <p>ビデオカメラ</p>
	12 読書発表会をする。		紹介した本 交流カード	
四 広 げ る	13 学習を振り返り、自己評価をする。	1	<p>自己評価、感想を書かせ、自己の変容を自覚させることにより、学びを実感させる。</p> <p>ファンタジーの読み方についてまとめ、さらに発展的に読書ができるようにする。</p> <p>----- 評価項目 -----</p> <p>学習を振り返り、ファンタジー作品を読もうとしているか。(ワークシート、ブックリスト)</p>	ワークシート 10

(6) 授業の実際と考察

ア 求める段階の実践 (4 / 13)

(ア) 目 標

『車のいろは空のいろ』シリーズの他の作品(『山ねこ、おことわり』)と『白いぼうし』を重ね読みすることにより、松井さんの人柄を想像することができる。

松井さんの人柄が、ファンタジーを支えていることを理解することができる。

(イ) 指導に当たって

『山ねこ、おことわり』と『白いぼうし』を重ね読みし、松井さんの人柄が表れている叙述に目を向けさせ、シリーズで貫かれている松井さんの人柄をつかませるようにする。

松井さんの人柄を一般化することにより、松井さんだからこそ、不思議な世界に入っていけることを理解させるようにする。

(ウ) 評価規準

『白いぼうし』『山ねこ、おことわり』の松井さんの行動描写から人柄を表す叙述に気付くことができる。 【読むこと】

(I) 実 際

学 習 活 動	時間	教 師 の か か わ り
1 学習課題を確認する。 松井さんはどんな人なのかを考えよう。	3	学習計画を基に、本時の学習内容を確認する。
2 『白いぼうし』の全文を読む。	16	松井さんの行動描写に着目させ、線を引かせながら指名読みで読ませる。
3 『山ねこ、おことわり』を範読テ		不思議な場面、松井さんの行動に着目させ、読

ープを聴きながら読む。		ませる。
4 二つの作品の行動描写を書き抜き松井さんの人柄を考える。	18	松井さんの人物像を自由に発想させる。 ----- 評価項目 ----- 松井さんの行動描写から人柄に気づき、作品のおもしろさを味わっているか。 (ワークシート, 発表)
5 松井さんの人物像についてまとめる。	5	想像力, 優しさ, 思いやり, 行動力がある人物であることをまとめる。
6 松井さんの人柄がファンタジーを支えていることを知る。	3	想像力, 優しさ, 思いやり, 行動力がある松井さんだからこそファンタジーの世界へと入っていけることを押さえる。

(オ) 考察

『白いぼうし』だけから松井さんの人柄に迫るよりも、シリーズの他の作品との重ね読みを通して人柄を把握させた方が子どもの学習意欲が高まり、シリーズで一貫して描かれている人物像をとらえやすいと考えた。子どもは、『白いぼうし』で、松井さんが逃がしたちょうの代わりに夏みかんをおいていく場面や、女の子に対しても優しい言葉で会話をしている場面などをとらえて優しい人物であることをとらえていた。また、『山ねこ、おことわり』では、松井さんが山ねこに「おりてくださいよ。」と言ったところが意外だったけど、最後に山ねこおことわりの紙を破ったところがやっぱり優しいという意見などが出された。



資料1 本時で使用したワークシート

さらに、『白いぼうし』の松井さんが白いぼうしを拾いに行く場面で、松井さんの行動力、男の子が夏みかんを見たときのことを想像している場面から、松井さんの想像力の豊かさをおさえた。

この時期、あまんきみこの『車のいろは空のいろ』シリーズの並行読書をしていたので、もっと他の作品を読んでみたいという意欲が高まった。

イ 求める段階での実践 (7 / 13)

(7) 目標

読み取ったことを交流し、自他の読みの違いに気づき、読みを深めることができる。
初発の感想と自己の読みを比較し、自己の読みの深まりを自覚することができる。

(イ) 指導に当たって

自他の考えの違いに気付かせるために、6人の子どものワークシートを全員に配布し、自分の考えと比較させるようにする。

子どもたちの考えを分析し、意図的指名により多様な考え方をさせようとする。

学習ファイルを見ながら、今までの学習を振り返らせ、自己の変容を自覚させるとともに、他の作品を読む意欲を高めるようにする。

(ウ) 評価規準

読み取ったことを交流することで、ファンタジーの成立要素を理解するとともに、自他の

読みの違いに気付いている。

【読むこと】

自己の学習を振り返り、自己の変容を中心に感想を書いている。

【書くこと】

(I) 実 際

学 習 活 動	時 間	教 師 の か か わ り
1 前時の学習を想起する。	3	夏みかんのにおいや女の子の会話などを自己学習でまとめたことを想起させ、本時の学習へとつなげる。
2 学習課題を確認する。 読み取ったことを交流しよう。		
3 ワークシート一覧を見て、自分の考えと違ったところやすばらしいと思った友達の考え方にサイドラインを引く。	7	女の子の会話から考えたこと、色彩語、比喩について、自分のワークシートと友達のものとの比べさせる。 自他の読みの違いに気付かせる。 机間指導をし、友達の考えのよさに気付かせる。
4 読み取ったことを交流する。	20	子どもの読み取りのワークシートを教師が事前に分析しておき、意図的指名により多様な考え方を出させる。 読みの浅い部分については、教師が話題として取り上げ、読みを深めていく。 女の子の会話が、読者を幻想の世界へと誘う伏線になっていることを理解させる。 色彩語、比喩、においなどの現実感が、幻想を支えていることを理解させる。
5 自己の読みの変容を中心に感想を書く。	10	<p style="text-align: center;">----- 評価項目 -----</p> <p style="text-align: center;">ファンタジーの成立要素を理解するとともに、自他の読みの違いに気付いたか。 (ワークシート、発表)</p> <p>自己の変容をとらえている児童数名に感想を発表させる。</p> <p style="text-align: center;">----- 評価項目 -----</p> <p style="text-align: center;">学習を振り返り、感想を書くことができたか。 (ワークシート、観察)</p>
6 自己評価をする。	5	観点に沿って、自己の変容を自覚させる。

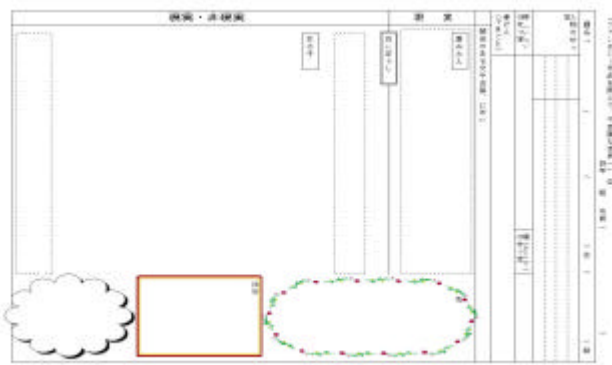
(オ) 考 察

友達のワークシートと自分のワークシートを比べさせることで、友達の考えのよさに気付いていた。しかし、実際に交流する段階で、叙述から想像を膨らませ、多様な見方考え方を表出させるまでには至らなかった。自己学習をしてきた前時までの段階で、読みが不十分であったことと、自由に書きこむ形式のワークシートに不慣れなためであったと思われる。十分な時間確保が必要であった。

子どもは、叙述から女の子がちょうであると読める構成の巧みに気づき、色彩語や比喩などのリアリティーあふれる表現が、女の子の登場する非現実の世界を支えていることを理解するこ

とができた。また、伏線や内の目、外の目という視点とちょうの「よかったね。」という会話のかぎ括弧がずれている視覚的效果についても理解を深めることができた。『白いぼうし』を読んだ読者の一人として、教師が作成したワークシートも配布し、多様な考え方に触れられるようにした。

その後、学習してきたことを学習ファイルを基に振り返らせ、自分が学習して分かったことを中心に感想を書かせ、自己評価をさせた。その感想を以下に示す。



資料2 読みのワークシート

子どもの感想より

『白いぼうし』を勉強したから、あまんきみこさんの物語の書き方や作品についての思いが分かった。もっと物語を読みたい。

ぼくは、『白いぼうし』を読んで、ファンタジーのおもしろさ、楽しさを教えてもらったような気がします。色々な言葉を楽しく教えてもらいました。ぼくは、ファンタジー作品は何冊も読みましたが、これほどまでおもしろい学習はないと思いました。

『白いぼうし』の学習で、比喻、伏線などが分かった。女の子が消えるところが不思議でした。でも、学習すると分かったのでよかったです。そして、『車のいろは空のいろ』を全部読んでみたくなりました。

白いぼうしじゃなくて青いぼうしでも、緑のぼうしでもよかったんじゃないのかなあ。あまんさんが考えて白いぼうしにしたのは分かっているけど、『白いぼうし』で分かったことは、比喻や伏線、ファンタジーなどです。『白いぼうし』の授業は、とても楽しかったです。ぼくの好きな場面は、女の子が消えるところです。ちょうかどうか分からないけどそれも楽しいです。あまんきみこさんは、ファンタジーが好きなのかなあと思いました。

ウ まとめる段階の実践 (9・10 / 13)

(7) 目標

学習の手引きを参考にして、構成を考えながら分かりやすく気に入った作品のまとめを書くことができる。

(1) 指導に当たって

並行読書をした作品の中から、お気に入りの一冊を決めさせ、作品についてまとめさせるようにする。

『白いぼうし』『山ねこ、おことわり』をまとめたものを学習の手引き1(資料4)として子どもたちに提示し、まとめ方を理解させるようにする。

ストーリーテリングのビデオ、ビデオの発表を書き下ろしたもの(資料5)、発表の話型を提示し、具体的にどのように発表すればよいかを理解させるようにする。

(ウ) 評価規準

作品の内容を分かりやすくまとめ、作品を読んだ感想を書くことができる。【書くこと】
構成を考えて、適切な言葉を加えながらストーリーテリングをすることができる。

【話すこと・聞くこと】

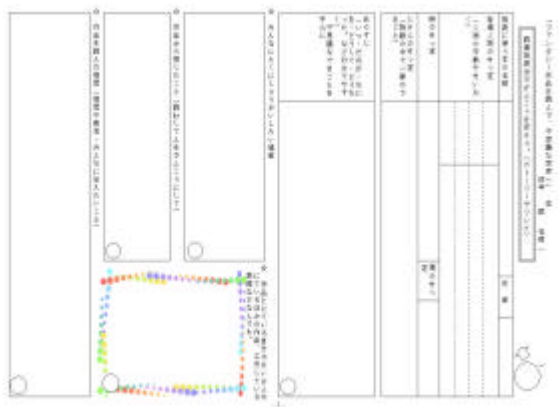
(I) 実際

学 習 活 動	時間	教 師 の か か わ り
1 学習課題を確認する。	3	学習計画表を確認させる。

<p>読書発表会にむけて、作品をまとめよう。</p>		<p>発表の形態が、ストーリーテリングであることを伝える。</p>
<p>2 ストーリーテリングをしている児童のビデオとその原稿（学習の手引き）を見て、原稿の書き方を知る。</p>	15	<p>まとめの内容が、発表になっていることを理解させ、話型や構成などを参考にさせる。</p>
<p>3 作品をまとめる。</p>	30	<p>学習の手引きを参考にさせ、書き方を具体的に指導する。</p> <p style="text-align: center;">----- 評価項目 -----</p> <p style="text-align: center;">分かりやすく作品についてまとめることができたか。 (ワークシート、観察)</p>
<p>4 まとめを見直し、声に出して読んでみる。</p>	25	<p>声に出させることで、修正すべきところを実感させる。</p> <p>構成を考えさせ、言葉を付け加えながら話をさせる。</p> <p style="text-align: center;">----- 評価項目 -----</p> <p style="text-align: center;">言葉を付け加えながら、分かりやすく話したり、話の中心を聞いたりすることができたか。 (観察、評価カード)</p>
<p>5 まとめたものを修正をする。</p>	15	<p>机間指導により、修正箇所に気付かせる。</p> <p>修正済みの子どもには、発表の練習をさせる。</p>
<p>6 次の学習を知る。</p>	2	<p>発表のリハーサルであることを伝える。</p>

(オ) 考 察

ストーリーテリングのビデオと作品のまとめを見せることによって、ストーリーテリングの具体像が子どもにイメージできた。まとめ作成では、中核教材で学習した『白いぼうし』と比較させたことにより、他の作品でも構造や表現に目を向けるようになり、読みを深めることができた。個人差はあったものの、短時間で仕上げることができた。また、まとめたものを基にして、発表する際には、ビデオの発表内容を書き下ろしたものと、具体的な話型を学習の手引きとして提示した。子どもは、手引きを参考にして、接続語や説明の補足などを付け加えて、話すことができた。さらに、画一的な発表にならないように、話す順序を考えさせた。あらすじから話し始めたり、作品を読んだ視点から話し始めたりと多様なストーリーテリングとなった。



資料3 本時で使用したワークシート



資料4 学習の手引き1

この学習から、筋道立てて分かりやすく話すために付け加える言葉を再度考えさせたり、声の大きさ、速さなど話し方のポイントを話し合わせたりし、リハーサルをする学習へと発展していった。読書発表会は、ワークショップ方式で行い、4年2組の子どもを招いて発表することとなった。発表を聞いて、感想交流カードを書かせることにより、話し手と聞き手の交流を図った。単元を終えての感想と、子どもの変容を以下に示す。



資料5 ビデオの書き下ろし

子どもの感想より

楽しい授業でした。いっぱい本を読んで、たくさんの本のことやファンタジーが分かりました。あまさんの気持ちもよく分かりました。発表会で人がたくさんきて、何回も読みました。国語の勉強でいろんなことが分かりました。

今までは、「本なんてどうでもいいや。」と思ってたけど、国語の授業で本がとっても好きになりました。

『あらしのよるに』シリーズや『おはじきの木』、『おにたのぼうし』などの本を知れてよかったです。それに、発表会やいろいろなことをして、とても勉強になりました。本ってこんなにおもしろいものだったんだと分かりました。

わたしは、国語がきらいだったけど、どんどん国語が好きになりました。『山ねこ、おことわり』を先生が読んでくれて、とてもおもしろいことが分かりました。

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

ア ブックリストの活用、重ね読み、並行読書、指定読書など読みの多様化を図ったことで、子どもは、教科書の中核教材と他の作品とを読みながら主体的に学習し、作品の読みを深めていくとともに読書への興味・関心も高めていった。

イ ブックリスト作成の観点を明確にし、子どもにブックリストを活用させた。このブックリストを基に、子どもは、シリーズものの多くのファンタジー作品を進んで読み味わった。

ウ 読みと関連付けた表現活動を行うことで、子どもの読みが更に深まるとともに、学習意欲が授業の終末まで持続した。具体的には、読みを表現する場として、ストーリーテリングを位置付けた。その際、モデル学習を取り入れ、学習の手引きを活用することで、子どもは、話し方を身に付け、構成を工夫しながら個性的なストーリーテリングをすることができた。

(2) 今後の課題

ア 子どもに、何をどのように読ませ、どのように表現と結び付けさせていくか、年間を見通して指導計画を立てていく必要がある。特に、読みに関しては、時間をかけて詳細に読むだけでなく、基礎・基本の定着を図りながら、指導事項を精選していく必要がある。

イ 実証授業で、ファンタジーの構成の巧みさに気付かせるため、叙述を視写させ、想像したことをワークシートに書き込ませ、交流させた。考えさせる時間が不足したことで、子どもの想像があまり膨らまず、多様な発言を引き出すことができなかった。十分に考える時間を保障し、前時までの学習を想起させたり、日頃からワークシートによる書き込みをさせたりするなど、指導法を工夫していく必要がある。